

# 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	がっくおん かかけん 学校法人 加計学園							
フリガナ大学の名称	くさけい いんぎがくがくがく 倉敷芸術科学大学							
大学本部の位置	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地							
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨に則り、芸術と科学に関する学術を深く教育研究し、創造性豊かな人材を養成して、社会の発展に寄与することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>●経営情報学科                      経営を取り巻く環境は日々変動し、企業経営の4大要素（人・物・金・情報）のバランスがより重要視されるようになってきている。一方で、コンピュータは、あらゆる経済活動を網羅する基盤技術の一つとして産業社会に組み込まれ、企業経営においても情報技術を理解し活用できる人材がこれまで以上に必要とされている。日進月歩のIT関連技術を如何に有効に活用していくかは、グローバル化した世界経済における日本の経営者にとって重要な課題となっている。しかしながら、経営と情報の双方の技術をマスターしている人材は少なく、社会における人的ニーズはより高まってきている。本学に設置する「経営情報学科」は、従来型の単なるビジネスパーソンの育成にとどまらず、グローバル化された情報化社会の中で国際的な視野を持ち、これからの企業のあるべき姿を見出しうる経営と情報の知識を複合総合的に身につけた人材の養成を目指す。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	産業科学技術学部 [College of Science & Industrial Technology]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地
	経営情報学科 [Department of Management and Information Science]	4	60	—	240	学士(産業科学技術)	平成23年4月 第1年次	
	計	4	60	—	240			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>●倉敷芸術科学大学                      産業科学技術学部                      IT科学科（廃止）（△30）                      起業経営学科（廃止）（△30）                      ※平成23年4月学生募集停止（平成22年5月報告予定）</p> <p>●岡山理科大学                      ・平成23年4月より入学定員を次のとおり変更                      理学部 応用数学科〔定員増〕 85→95（10）                      理学部 化学科〔定員減〕 75→70（△5）                      工学部 知能機械工学科〔定員減〕 60→55（△5）                      総合情報学部 社会情報学科〔定員増〕 70→80（10）                      ・平成23年4月、工学部 建築学科（70）設置届出書提出                      （3年次編入学定員）（5）                      ・平成23年4月学生募集停止                      総合情報学部                      建築学科（廃止）（△80）（平成23年6月届出予定）                      （3年次編入学定員）（△10）                      ※平成23年4月学生募集停止                      （3年次編入学定員は平成25年4月募集停止）</p>							

同一設置者内における変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		●岡山理科大学大学院 ・平成23年4月より入学定員を次のとおり変更 工学研究科 機械システム工学専攻〔定員減〕 14→13 (△1) 工学研究科 電子工学専攻〔定員減〕 13→8 (△5) 工学研究科 情報工学専攻〔定員減〕 13→10 (△3) 工学研究科 知能機械工学専攻〔定員減〕 8→7 (△1) 総合情報研究科 情報科学専攻〔定員減〕 7→6 (△1) 総合情報研究科 シミュレーション科学専攻〔定員減〕 4→3 (△1) 総合情報研究科 生物地球システム専攻〔定員減〕 7→6 (△1) 総合情報研究科 社会情報専攻〔定員減〕 7→6 (△1) ・平成23年4月、工学研究科 生体医工学専攻(6名)設置届出書提出 工学研究科 建築学専攻(8名)設置届出書提出							
		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
教育課程	新設学部等の名称	講義	演習	実験・実習	計				
	産業科学技術学部 経営情報学科	100 科目	24 科目	17 科目	141 科目	124 単位			
教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
	新 設	産業科学技術学部 経営情報学科	人	人	人	人	人	人	人
		計	12 (18)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (19)	0 (0)	53 (53)
	既 設	芸術学部 美術工芸学科	8 (11)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (16)	1 (1)	32 (32)
		芸術学部 メディア映像学科	4 (5)	5 (5)	1 (2)	0 (0)	10 (12)	0 (0)	38 (38)
		芸術学部 デザイン学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	42 (42)
		計	17 (21)	10 (11)	4 (5)	0 (0)	31 (37)	1 (1)	112 (112)
	設 置	産業科学技術学部 観光学科	7 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	38 (38)
		計	7 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	38 (38)
	分 割	生命科学部 生命科学科	9 (9)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	41 (41)
		生命科学部 健康科学科	8 (9)	2 (2)	3 (4)	2 (2)	15 (17)	0 (0)	41 (41)
		生命科学部 生命動物科学科	5 (6)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	10 (11)	1 (1)	27 (27)
		生命科学部 生命医科学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	35 (35)
		計	26 (28)	4 (4)	7 (8)	7 (7)	44 (47)	1 (1)	144 (144)
	合計		62 (73)	17 (18)	13 (15)	7 (7)	99 (113)	2 (2)	347 (347)
教員以外の職員 の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		人		人		人		
	56 (56)				2 (2)		58 (58)		
	技 術 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		6 (6)		7 (7)		
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		59 (59)		8 (8)		67 (67)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	133,308.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		133,308.98 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	85,876.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		85,876.00 m <sup>2</sup>		
	小 計	219,184.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		219,184.98 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	28,483.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		28,483.00 m <sup>2</sup>		
合 計	247,667.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		0 m <sup>2</sup>		247,667.98 m <sup>2</sup>			

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		44,259.54 m <sup>2</sup> (44,259.54 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	44,259.54 m <sup>2</sup> (44,259.54 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	3 2室	2 8室	9 3室	1 0室 (補助職員 0人)	1 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		経営情報学科		19 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	経営情報学科	14,246 [2,902] (14,246 [2,902])	88 [33] ( 88 [33])	8 [ 8] ( 8 [ 8])	157 (157)	8,282 ( 8,282 )	0 ( 0 )			
	計	14,246 [2,902] (14,246 [2,902])	88 [33] ( 88 [33])	8 [ 8] ( 8 [ 8])	157 (157)	8,282 ( 8,282 )	0 ( 0 )			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		1445.97 m <sup>2</sup>		252		113,500				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1999.87 m <sup>2</sup>		トラック1面、フットサルコート1面 スケートリンク1面、テニスコート7面						
経 費 積 累 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費		800千円	200千円	300千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円
		設備購入費		2,800千円	700千円	1,000千円	1,400千円	1,400千円	— 千円	— 千円
		学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,298千円	1,078千円	1,078千円	1,078千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学等経常費補助金 等							
大 学 の 名 称		倉敷芸術科学大学								
既 設 大 学 等 の 状 況	既 設 学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	(芸術研究科) 美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.60	平成11年度	倉敷市連島町 西之浦2640番地	
	工芸専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.05	平成11年度		
	芸術研究科修士課程 計						0.52			
	芸術制作表現専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.50	平成13年度	平成17年度より芸術学 部工芸・デザイン学科 より10名を生命科学部 健康科学科へ振替。 産業科学技術学部起業 学科(通信教育課程) を募集停止。	
	芸術研究科博士課程 計						0.50			
	(産業科学技術研究科) 計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.12	平成11年度	平成18年度より産業科 学技術学部コンピュータ情 報学科より30名、生命 科学科より10名を振替。 生命科学部に生命動物 科学科を設置し、健康 科学科10名増。	
	機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	1.12	平成11年度		
	産業科学技術研究科修士課程 計						0.62			
	計算機科学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成13年度	平成19年度より芸術学 部工芸・デザイン学科 より10名、起業学科よ り10名を生命動物科学 科に振替。	
機能物質化学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.33	平成13年度			
産業科学技術研究科修士課程 計						0.16				
(人間文化研究科) 人間文化専攻修士課程	2	15	—	30	修士(学術)	0.56	平成11年度			
人間文化研究科 計						0.56				

既設大学等の状況	大学院（通信制） （芸術研究科） 美術専攻（通信制）修士課程 芸術研究科 計	2	10	—	20	修士（芸術）	0.20	平成14年度		平成20年度より芸術学部美術学科、工芸・デザイン学科を募集停止し、芸術学部には美術工芸学科、デザイン学科を設置。
	（産業科学技術研究科） 機能物質化学専攻（通信制）修士課程 産業科学技術研究科 計	2	20	—	40	修士（産業科学技術）	0.02	平成14年度		産業科学技術学部には観光学科を設置。コンピュータ情報学科は、IT科学科に名称変更。起業学科は、起業経営学科に名称変更。
	（人間文化研究科） 人間文化専攻（通信制）修士課程 人間文化研究科 計	2	30	—	60	修士（学術）	0.11	平成14年度		生命科学部に生命医科学科を設置。生命科学科より、10名を観光学科に振替。生命動物科学科編入学3年次8名増。
	（芸術学部） 美術学科	4	—	—	40	学士（芸術）	1.15	平成7年度		
	工芸・デザイン学科	4	—	—	30	学士（芸術）	0.70	平成7年度		
	美術工芸学科	4	40	—	125	学士（芸術）	0.90	平成20年度		
	メディア映像学科	4	30	—	130	学士（芸術）	1.04	平成14年度		
	デザイン学科	4	30	—	95	学士（芸術）	1.28	平成20年度		
	芸術学部 計						1.01			
	（産業科学技術学部） IT科学科	4	30	—	150	学士（産業科学技術）	0.63	平成7年度		
	起業経営学科	4	30	—	120	学士（産業科学技術）	1.09	平成16年度		
	観光学科	4	45	—	130	学士（産業科学技術）	1.17	平成20年度		
	産業科学技術学部 計						0.96			
	（生命科学部） 生命科学科	4	45	—	220	学士（生命科学）	1.13	平成16年度		
	健康科学科	4	60	—	240	学士（健康科学）	1.02	平成16年度		
	生命動物科学科	4	65	3年次 8	266	学士（生命科学）	1.24	平成18年度		
	生命医科学科	4	45	—	130	学士（生命科学）	1.28	平成20年度		
	生命科学部 計						1.16			
	学部（通信教育課程） （産業科学技術学部） IT科学科	4	—	2年次 — 3年次 —	900	学士（産業科学技術）	0.02	平成15年度		
	産業科学技術学部（通信制）計						0.02			
	留学生別科	1	30	—	30		1.00	平成13年度		
	留学生別科	1.5	20	—	20		2.10	平成21年度		
	神戸留学生別科	1	190	—	190		0.07	平成21年度	兵庫県神戸市	
神戸留学生別科	1.5	80	—	80		0.90	平成21年度	東灘区御影2-15-27		
大 学 の 名 称	岡山理科大学									
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地		
理学研究科								岡山県岡山市北区		・名称変更 平成17年度より工学 研究科機械工学専攻 →機械システム工学専攻  総合情報研究科 シミュレーション物理専攻 →シミュレーション科学専攻
応用数学専攻修士課程	2	7	—	14	修士（理学）	1.00	昭和55年度	理大町1番1号		
化学専攻修士課程	2	16	—	32	修士（理学）	1.56	昭和49年度			
応用物理学専攻修士課程	2	14	—	28	修士（理学）	0.96	昭和49年度			
総合理学専攻修士課程	2	13	—	26	修士（理学）	1.07	昭和63年度			
生物化学専攻修士課程	2	14	—	28	修士（理学）	1.46	平成4年度			
臨床生命科学専攻修士課程	2	12	—	24	修士（理学）	0.70	平成20年度			

既設大学等の状況	応用数学専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士（理学）	0.00	昭和62年度			
	材質理学専攻 博士課程（後期）	3	9	—	27	博士（理学）	0.36	昭和53年度		平成20年度より理学 研究科臨床生命科学 専攻を設置。	
	工学研究科										
	応用化学専攻修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.84	平成2年度		平成21年度より工学 研究科福祉システム工学 専攻を募集停止し知 能機械工学専攻を設 置。	
	機械システム工学専攻 修士課程	2	14	—	28	修士（工学）	1.00	平成2年度			
	電子工学専攻修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.34	平成2年度			
	情報工学専攻修士課程	2	13	—	26	修士（工学）	0.69	平成8年度			
	福祉システム工学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成17年度			
	知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	1.31	平成21年度			
	システム科学専攻 博士課程（後期）	3	5	—	15	博士（工学）	0.46	平成2年度			
	総合情報研究科										
	情報科学専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	1.00	平成13年度			
	シミュレーション科学 専攻修士課程	2	4	—	8	修士（総合情報）	0.87	平成13年度			
	生物地球システム専攻 修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.78	平成13年度			
	社会情報専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.07	平成13年度			
	数理・環境システム専攻 博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	1.16	平成15年度			
	理学部										
	応用数学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.28	昭和39年度		・名称変更 平成18年度より 応用化学科 応用化学専攻、 生物・環境化学専攻 →バイオ・応用 化学科	
	化学科	4	75	—	300	学士（理学）	0.87	昭和39年度			
	応用物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	0.84	昭和41年度			
	物理科学専攻	4	30	—	125	学士（理学）		平成14年度			
	医用科学専攻	4	40	—	160	学士（理学）	0.99	平成14年度			
	基礎理学科	4	75	—	305	学士（理学）	0.99	昭和50年度			
	生物化学科	4	85	—	345	学士（理学）	1.24	昭和63年度			
	臨床生命科学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.16	平成16年度			
	動物学科	4	40	—	120	学士（理学）	1.28	平成20年度			
	工学部										
	バイオ・応用化学科	4	75	—	305	学士（工学）	1.12	昭和61年度		平成20年度より理学 部動物学科を設置。	
	応用化学専攻	4	—	—	—	学士（工学）		昭和61年度			
	生物・環境化学専攻	4	—	—	—	学士（工学）		昭和61年度			
	機械システム工学科	4	85	—	340	学士（工学）	0.96	昭和61年度			
	電気電子システム学科	4	70	—	280	学士（工学）	0.88	昭和61年度			
情報工学科	4	85	—	340	学士（工学）	1.04	平成4年度				
知能機械工学科	4	60	—	250	学士（工学）	0.72	平成17年度				
生体医工学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.76	平成19年度				
総合情報学部											
情報科学科	4	80	—	320	学士（総合情報学）	0.94	平成9年度		平成18年度より 総合情報学部コンピ ュータシミュレーション学科 は募集停止し、在 学生の卒業を待つ て廃止。 入学定員40名は建 築学科に振替。		
コンピュータシミュレーション学科	4	—	—	—	学士（総合情報学）	—	平成9年度				
生物地球システム学科	4	70	—	290	学士（総合情報学）	0.97	平成9年度				

既設大学等の状況	社会情報学科	4	70	—	280	学士(総合情報学)	1.25	平成9年度	千葉県銚子市潮見町3番地	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度より工学部生体医工学科、総合情報学部建築学科を設置。</li> <li>・名称変更</li> <li>工学部電子工学科→電気・電子システム学科</li> <li>総合情報学部社会情報学科地域人間情報専攻、情報社会システム専攻の専攻を廃止。</li> <li>平成22年度より、留学生別科を設置。</li> </ul>		
	地域人間情報専攻	4	—	—	—							
	情報社会システム専攻	4	—	—	—							
	建築学科	4	80	10	340	学士(総合情報学)	0.65	平成19年度				
	(理学専攻科)											
	応用数学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	応用化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	応用物理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	機械理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	電子理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度				
	教職特別課程	1	50	—	50		0.30	平成22年度				
	留学生別科	1	60	—	60		0.30	平成22年度				
	大学の名称	千葉科学大学										
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地	備考
	年	人	年次	人								
大学院			4年次									
(薬科学研究科)												
薬科学専攻修士課程	2	—	—	—	修士(薬科学)	—	平成20年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学部薬学科(4年制課程)は平成16年度に開設したが、改組により薬学科(6年制課程)へ平成18年度に移行した。</li> <li>・平成16年度薬学部薬学科(4年制課程)入学定員200名、編入学2年次5名405名(平成17年度まで)→平成18年度は薬学部薬学科(6年制課程)入学定員120名、編入学4年次5名(平成18年度)</li> <li>・平成19年度より入学定員・編入学定員を変更した。(純増)</li> <li>薬学部薬学科(6年制)入学定員120名→200名(+80)編入学定員4年次10名(+5)</li> <li>薬学部薬科学科20名→50名(+30)</li> <li>・平成20年度より大学院薬科学研究科薬科学専攻及び危機管理学研究科危機管理学専攻を設置。</li> <li>・平成20年度より薬学部動物生命薬科学科を設置。</li> </ul>			
薬科学専攻修士課程	2	10	—	20	修士(薬科学)	0.80	平成22年度					
薬科学専攻博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(薬科学)	0.60	平成22年度					
(危機管理学研究科)												
危機管理学専攻修士課程	2	5	—	10	修士(危機管理学)	1.87	平成20年度					
危機管理学専攻博士課程(後期)	3	3	—	9	博士(危機管理学)	0.33	平成22年度					
(薬学部)			4年次				(平成16年度)					
薬学科	6	120	10	735	学士(薬学)	0.74	平成18年度					
薬科学科	4	—	—	—	学士(薬科学)	—	平成18年度					
動物生命薬科学科	4	—	—	—	学士(動物生命薬科学)	—	平成20年度					
生命薬科学科	4	50	—	50	学士(生命薬科学)	0.70	平成22年度					
(危機管理学部)			3年次									
防災システム学科	4	—	5	—	学士(危機管理)	—	平成16年度					
環境安全システム学科	4	—	5	—	学士(危機管理)	—	平成16年度					
危機管理システム学科	4	100	5	315	学士(危機管理)	0.97	平成16年度					
動物・環境システム学科	4	60	5	120	学士(危機管理)	0.78	平成21年度					
医療危機管理学科	4	80	5	180	学士(危機管理)	0.95	平成21年度					
航空・輸送安全学科	4	40	5	40	学士(危機管理)	0.45	平成22年度					
留学生別科	4	40	40	40		0.98	平成22年度					

既設大学等の状況																	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員200名→180名（△20）薬学部薬科学科入学定員50名→40名（△10）危機管理学部防災システム学科入学定員70名→50名（△20）危機管理学部環境安全システム学科入学定員70名→90名（+20）</li> <li>・平成21年度に危機管理学部を改組し、より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員200名→180名（△20）薬学部薬科学科入学定員50名→40名（△10）危機管理学部防災システム学科入学定員70名→50名（△20）危機管理学部環境安全システム学科入学定員70名→90名（+20）</li> <li>・危機管理学部防災システム学科及び同学部環境安全システム学科を平成21年度より学生募集停止し、同学部動物・環境システム学科及び同学部医療危機管理学科を設置。</li> <li>・平成21年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員180名→150名（△30）危機管理学部危機管理システム学科入学定員70名→95名（+25）</li> <li>・薬学部薬科学科及び同学部動物生命薬科学科を平成22年度より学生募集停止し、同学部生命薬科学科を設置。</li> <li>・平成22年度より危機管理学部航空・輸送安全学科を設置。</li> <li>・平成22年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員150名→120名（△30）危機管理学部危機管理システム学科 入学定員95名→100名（+5）危機管理学部医療危機管理学科入学定員100名→80名（△20）</li> <li>・旧4年制薬学科教育を基礎とした薬科学専攻修士課程を平成22年度より学生募集停止し、新4年制薬学教育を基礎とした薬科学専攻修士課程を設置。</li> </ul>
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

<p>附属施設の概要</p>		
----------------	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。



# 教 育 課 程 等 の 概 要

(産業科学技術学部 経営情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目	哲学	1・2・3・4		2		○									兼1
	文学	1・2・3・4		2		○									兼1
	歴史学	1・2・3・4		2		○									兼2
	日本語表現	1・2・3・4		2		○									兼1
	宗教学	1・2・3・4		2		○									兼1
	社会と言語	1・2・3・4		2		○									兼1
	心理学	1・2・3・4		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4		2		○									兼1
	環境と社会	1・2・3・4		2		○				1					
	日本国憲法	1・2・3・4		2		○									兼1
	法学	1・2・3・4		2		○				1					
	経済学	1・2・3・4		2		○				1					
	物理学	1・2・3・4		2		○									兼2
	化学	1・2・3・4		2		○									兼1
	人間と環境	1・2・3・4		2		○									兼1
	地球科学	1・2・3・4		2		○									兼2
	数学	1・2・3・4		2		○				2					
	世界と日本	1・2・3・4		2		○									兼1
	アジアの政治文化	1・2・3・4		2		○									兼1
	マスコミ論	1・2・3・4		2		○									兼1
	文章表現法	1・2・3・4		2		○									兼1
	人間の発達と形成	1・2・3・4		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1・2・3・4		2		○									兼1
	芸術と科学の協調	2後		2		○									兼3
	人生と仕事Ⅰ	1前・後		2		○									兼1
	人生と仕事Ⅱ	2前・後		2		○									兼1
	キャリア・ラーニング	3前		2		○				1					
	キャリア・チャレンジⅠ	2前		1				○		1					
	キャリア・チャレンジⅡ	2後		1				○		1					
	基礎数学	1前・後		2		○									兼1
	基礎英語	1前・後		2		○									兼1
	基礎化学	1前・後		2		○									兼1
	基礎物理	1前・後		2		○									兼1
	倉敷まちづくり基礎論	1後		2		○				1					兼1
	倉敷まちづくり実践論	1後		2		○				1					兼1
	まちづくりインターンシップ	2前		2				○		1					
	英語Ⅰ	1前		2				○		1					兼4
	英語Ⅱ	1後		2				○		1					兼4
	中国語Ⅰ	1前		2				○							兼1
	中国語Ⅱ	1後		2				○							兼1
	英会話Ⅰ	2前		2				○		1					兼1
	英会話Ⅱ	2後		2				○		1					兼2
	ドイツ語Ⅰ	1前		2				○							兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		2				○							兼1
	日本語Ⅰ	1前		2				○							兼2
日本語Ⅱ	1後		2				○							兼2	
日本語会話Ⅰ	1前		2				○							兼2	
日本語会話Ⅱ	1後		2				○							兼2	
日本語理解Ⅰ	1前		2				○							兼2	
日本語理解Ⅱ	1後		2				○							兼2	
保健体育概論	1前・後		2			○								兼4	
保健体育実技Ⅰ	1前		1					○						兼4	
保健体育実技Ⅱ	1後		1					○						兼4	
小計(53科目)		—	16	86	0	—	—	—	8	0	0	0	0	兼40	
専 攻 科 目	共 通 科 目	経営学概論	1前	2			○			1					
		簿記論	1後	2			○				1				
		簿記論演習	2前		2				○			1			
		経済学原論Ⅰ(マクロ)	2前		2			○			1				
		経済学原論Ⅱ(ミクロ)	2後			2			○			1			
民法総論	1前		2				○			1					

日本人学  
生対象

外国人留  
学生対象



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻科目	ビジネス日本語	2前		2				○								兼1	外国人留学生対象
	日本語演習Ⅰ	1前		2				○								兼1	
	日本語演習Ⅱ	1後		2				○								兼1	
	観光社会学	2後		2			○									兼1	
	芸術文化論	2前		2			○									兼1	
	日本美術史	1後		2			○									兼1	
	西洋美術史Ⅰ	2前		2			○									兼1	
	西洋美術史Ⅱ	2後		2			○									兼1	
	日本近代美術史	3前		2			○									兼1	
	文化財学概論	3後		2			○									兼1	
	デザイン史	3前		2			○									兼1	
	小計(12科目)	—		0	24	0			—		0	0	0	0	0	0	兼10
	インターンシップ	1後			8					○							
	インターンシップ概論	1後			4			○									
	プロジェクト実習Ⅰ	2後			1						○						
	プロジェクト実習Ⅱ	3後			1						○						
	プロジェクト実習Ⅲ	4後			1						○						
	小計(5科目)	—		0	15	0			—		4	0	0	0	0		
	ITパスポート特論	1・2・3・4			2			○									集中
	基本情報技術者特論	1・2・3・4			2			○									集中
	ITスペシャリスト特論	1・2・3・4			2			○									集中
	小計(3科目)	—		0	6	0			—		5	0	0	0	0		
	ゼミナールⅠ	1通		4					○								
	ゼミナールⅡ	2通		4					○								
ゼミナールⅢ	3通		4					○									
卒業研究	4通		8							○							
小計(4科目)	—		20	0	0			—		18	1	0	0	0			
合計(141科目)	—		50	253	0			—		18	1	0	0	0		兼54	
学位又は称号	学士(産業科学技術)			学位又は学科の分野				経済学関係、工学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
教養科目を20単位以上、専攻科目を90単位以上、合計で124単位以上を修得するものとする。								1学年の学期区分			2期						
(履修科目の登録の上限: 48単位(年間))								1学期の授業期間			15週						
								1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(産業科学技術学部経営情報学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	哲学	哲学的に思索するとはどういうことを学ぶにあたって、まず正しく考えることから始めなければならない。そのためには、論理的に誤りのない正しい判断が求められる。本講義では、正しい論理を展開していくにあたっての基本的知識を学び、さらには哲学の根本的諸問題にも触れていく。	
	文学	近世から現代まで日本文学に大きな影響を与えている中国白話小説に『水滸伝』があるが、この作品をいろいろな角度から分析し、テーマごとに毎回完結する形（第13、14回は2回で完結）で講義を進める。文学作品を読む上で、自分で作品を分析して読む1つの目安を持つと、1つの作品の楽しみ方が見えてくるはずである。	
	歴史学	絵文字ヒエログリフが示しているように、古代エジプト美術は、文化を伝える言語といえる。言い換えればエジプト美術は、これを創造した古代人の心の具象表現なのである。エジプト美術史の流れをたどっていく、当時の人々の思考方法を支えた宗教を解明する。今期は、エジプト文化誕生前後の先王朝時代から王墓ピラミッドが盛んに建造された古王国時代末までの葬祭建築を中心に、古代エジプト人の死生観を明らかにする。	
	日本語表現	「ら抜きことば」やことばの省略、新奇な造語の多用、従来とは異なる敬語の使用、共通語と方言の混用や世代間差等、現代のことばにみられる事象を「乱れ」ととらえるか「変化」ととらえるかは立場や考え方によって様々だが、それらの事象について客観的に考えるためには、まず日本語の仕組みと特徴を知る必要がある。本講義では、日本語の仕組みと特徴をふまえた上で、日本語にどのような変化が起きているのかを知り、的確な日本語を使用するために、どのような表現を選択すればよいか考えていく。	
	宗教学	世界中で多発する民族紛争やテロ事件の大半は、宗教が深く関わっている。このような問題に限らず、世界の情勢を理解する上で、宗教の知識が不可欠であることはいうまでもない。にもかかわらず、世界的にみて日本人は宗教について無知、無関心であるといわれている。本講義では、宗教の基礎的な知識を学ぶことによって、宗教のあるべき姿を模索したい。	
	社会と言語	我々の日常生活には様々なかたちで「ことば」が関わっており、我々の生活から「ことば」を切り離すことはできない。本講義では、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を文化・生活等の社会的な側面から説明していく。また、辞書や文法書には書かれていない、言語・非言語コミュニケーションの定義や特徴について論じ、我々が日常的に発・受信する様々なメッセージを例に、コミュニケーションの特徴や規則について考えていく。	
	心理学	多くの人が、素朴心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。	
	政治学	政治学を研究・理解する上で必要となる基礎的知識を持てるよう講義する。取り上げるテーマは、権力、支配、政治システム、国家、政府、官僚制、選挙、政党、民主政治、ナショナリズム、権威主義体制、ポリアーキーなどであるが、そのいずれも政治を理解する上での基礎的なものばかりである。また、近年のグローバリゼーションの進展に伴って政治を単に国内政治のみに限定して理解することは不可能な状況にあるため、本講義では国内政治と連繫する国際政治の枠組みも紹介しつつ、政治の全体像を学ぶのが目的である。	
	環境と社会	日本の公害経験と政策対応、中国の公害・環境破壊の実態と政府の対応および環境政策理論について学ぶ。講義を通して、環境問題の重要性を認識し、日々の生活の中で、問題への対応意識を向上させることを目標とする。	
	日本国憲法	現行憲法の前身である大日本帝国憲法と現行の日本国憲法を比較し、両者の違いを明らかにすることによって、日本国憲法の特徴を浮き彫りにしたい。さらに、日本国憲法の理念と現実との間のギャップにも目を向け、日本国憲法の今日的課題についても考察していきたい。将来、憲法改正問題に直面したときに、何がわが国の憲法として必要なのかを、自分で判断できるような憲法観を養うことが目標である。	
	法学	法学の主な目的は、法の基本的な仕組みを知ってもらうことにある。参審制の意義や、プライバシー権と個人情報の流布の問題、家族関係の変化と婚姻観の国際的比較など、現代的テーマを中心に講義する。	
	経済学	本講義では、現在の資本主義社会の下で健全な市民として義務を履行し、権利を享受するために必要な社会の構造に対する知識を養う。経済学の基礎知識を習得させることを目標とする。	
	物理学	この講義では教養の物理学として「力学」の分野の初歩を学習します。できるだけ身近な例を取り入れて、「わかりやすく」を目標に講義を進めます。各時間ごとの講義内容に関連した演習プリントを使い、わかりやすく解説しながら学習を進めていきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	化学	私たちの身の回りには物が溢れている。これら衣食住をはじめ、生物・鉱物・機器・医薬品など、我々人間も含めた地球上のありとあらゆるものが化学そのものであると言っても過言ではない。化学は総ての物質の基礎であると同時に、我々が文明生活を送る上で必要不可欠なものである。今この化学をどのようにして人類そして地球上の全ての生物のために役立てるかが問われている。そのような観点から、化学の基礎的な知識を学び、そこから実生活に密着した化学を紹介し解説する。ビデオを利用した目で見る知識、新聞・雑誌の記事などからの最新ニュースなどについても紹介し考える。自ら疑問を持ち、考え、工夫し、纏める能力を培ってもらおう。	
	人間と環境	人間の生存環境保全に関わることは、自ら環境を凝視することである。そして、人間と自然と技術の調和を真剣に考え続けることである。今日、人間生活を脅かしている地球環境の変化は、人間の生活を便利にさせた技術開発の結果に由来するといつて過言ではない。農業の持つ公益的機能を中心に、人間と自然の結びつきを考えさせる。	
	地球科学	地球の誕生から、その後の約46億年の間に地球環境が自然のシステムの中でどのように変化してきたかを理解することによって、現在の人間活動による急激な環境変化を再考する機会とする。また、地球科学的的事件によって、生物や人間生活にどのような影響が及んだかを説明すると共に、私たちの身近な環境問題の現状と保全方法についても取り上げる。	
	数学	教養としての数学の講義を行う。数学が単に計算だけでなく、本質的なものの抽出の方法や推論・論理展開を考察する科目でもあることを、身近にある実例を通して学ぶ。数学の諸分野からトピックスを選んだが、特に視覚にも訴えるものを選んだつもりである。背景に使われている数学がどのようなものかについて考察していく。講義は理論展開だけでなく、折り紙を折るなどの実験をたびたび行いながら体験的に進めていきたい。	
	世界と日本	日本は資源が乏しいため多くのものを世界に依存している。そのためいろいろな分野で世界的視点に立ったものの考え方ができる人が求められている。この講義では、世界をどのようにとらえるかについて考察する。具体的には、世界の主要な組織、日本の組織、例として特定地域や国と日本の関係等、また、今日的な問題等をどうとらえるべきかについて考察していく。	
	アジアの政治文化	国際関係で指摘される世界におけるアジアの文化の特徴の一つは、多様な文化の共棲ということである。そうした多様な文化にもとついて実施されている政治制度としての民主主義も、一言では説明できないほどの多様性を示している。そこで、本講義では、こうしたアジアの政治と文化をその「多様性」に着目しつつ、現代アジアの形成過程の視点から理解することをめざすものであるが、その際、アジアの人々の価値観をたどることになるが、この点に留意しつつ、周辺地域（ヨーロッパ、アメリカ、ロシアなど）との接触・融合・反発という交流過程も取り上げ、受講者が将来のアジアの政治と文化の行く末を理解することを目的とする。	
	マスコミ論	マスコミ（マスメディア）は、私たちの暮らしとかがわりが深い。今や、国家、社会、組織、大衆にマスコミの影響力は、実に巨大である。このマスコミの歴史、組織、現状、理念、方向性を現実の具体例を提示しながら、その本質を正確に把握出来る様に講義する。	
	文章表現法	情報化社会では、正確な分りやすい文章を書くことと論理的に書くことが要求される。しかし、正確に事実を伝える文章を書くことは、これまで疎かにされてきたようである。ある絵を見て、その絵がどのような絵であるかを伝えるという課題を小・中学生に行ったところ、絵の持つ情報量の3割しか伝えられなかったという結果がある。経験やカンに頼るのではなく、目標を明確にした系統だった練習によって文章力を身につけるための方法を講義する。	
	人間の発達と形成	現代社会は情報化、コンピュータ化が急速に進み、人間について顧みる機会が減っています。そこで、講義では人間の成長・発展、あるいは形成を、教育（生涯学習）の観点から捉え、最終的には成人した大人が学習するそのあり方について概説する。同時に、社会で生じている関連あるトピックを随時取りあげ、討論し、考える力を養いたい。	
	芸術と科学の協調	芸術と科学の協調という本学の設立理念を具体的に認識するために、各学部の専門領域の研究成果の実例を挙げて概説する。歴史的にも芸術の変遷と科学の発展が互いに深い関係を持つことの知識の習得、また、現在に於ける芸術分野と科学の分野の共同による研究動向に対する関心を高め、さらに、将来に向けて、幅広い視点を獲得するために導入的講義を行う。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の一つである日本舞踊をとりあげ、成り立ちと歴史、隣接領域（歌舞伎・能・狂言・文楽等）との関連性、基本的技法と表現、舞踊音楽、創作、鑑賞、および作品に関する内容を理解させるとともに、一部の実技指導を通して、日本舞踊にみられる日本人の礼儀と作法を学ばせる。	
	人生と仕事Ⅰ	当講義は、受講者に就職への適切な意識を早期に持たせることを目的とする。先ず初めに、「人が生きるとはどういうことなのか」を考えさせ、次に「働くとはどういうことを意味するのか、何のために働くのか」を考えさせる。その上で「人生と仕事はいついどう結びつくのか」について考えさせかつ学ばせる。	
	人生と仕事Ⅱ	「人生と仕事Ⅰ」で就職への意識をもった上で、将来の仕事、職種を考え、その準備内容を知り、その業界の知識をも得る。「どんな仕事をしたいのか」「何を準備すべきか」「業界の様子はどうか」「自己実現への方法」等をしっかり考える。併せて、就職活動に必要な自己表現力や社会人としてのマナー等をも身につける。総じて「社会人基礎力」を身につけるべく努める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	キャリア・ラーニング	最近の就職選考においては、第一に筆記試験を課し、この試験を通過した少数の者に対してきめ細やかな面接を行うのが普通である。この筆記試験をパスするのが、最初の関門なのである。最近の就職試験は、SPIと呼ばれる形式の試験が中心である。この試験は、半分以上が言語能力検査(数学)で残りの半分以上が言語能力検査(国語)である。数学の内容は、方程式の文章題などであるが、1題を1分弱ぐらいの時間で解かなくてはならないため、合格点に達することは想像する以上に難しい。早い時点から十分な時間をかけて準備しておく必要なのである。当講義は、自ら筆記試験対策の勉強を始めるきっかけを与えることをねらいとするものである。社会人への条件である社会常識と日常に必要な学問的知識を得ることを目標とする。	
	キャリア・チャレンジⅠ	自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計(キャリア・デザイン)に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。	
	キャリア・チャレンジⅡ	自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計(キャリア・デザイン)に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。	
	基礎数学	数学に関する基礎知識を復習し、演習問題を解くことにより、次の段階の数学へスムーズに進んでいけるようにします。多くの演習問題の解説やそれを自力で解けるようになるまで、ゆっくりと丁寧に指導し、解らないところは、質問するなどして、受け身の授業ではなく、教員と受講生との活発なやりとりがあるような講義を行う。	
	基礎英語	意思伝達の手段である英語をよりよく理解するためには「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能をささえるところのことばの骨格である文法を十分身に付けることが肝要である。このことよって大学での英語の発展的な展開が可能となる。ここでは出来る限り多様な英文に接し、自然と英語が身近なものとなるように授業を展開していく。	
	基礎化学	「化学」をする喜びは、自然現象に興味を持つことが大切だといわれますが単に興味を持つことは困難なことです。不思議な現象が起これば、だれもが「どうして?」と疑問を持つものです。しかし、それを発展させるには、「基本的な事項」を身につけることが涵養です。また、身につけていないと先には進めず興味もさめてしまいます。そこで、この講義では、化学の基本を押さえ、考え方の手順を知り、「化学の興味」を追求するために開講するものです。ゆっくりと気楽に話し合いながら「身につく化学」を展開したいと考えています。	
	基礎物理	この講義では、「力学」の分野に絞って、その基本的な内容が理解できるようにゆっくりと時間をかけて学習します。また、多くの演習問題に取り組むことによって知識を確実に身につけてもらいたいと考えています。各時間ごとの講義内容に関連した演習プリントを使い、わかりやすく解説しながら学習を進めていきます。	
	倉敷まちづくり基礎論	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業の形態が中心となり、共同学習、共同討議、プレゼンテーションなど学生参加型のスタイルも採り入れる。	
	倉敷まちづくり実践論	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業を活用して、実践的なグループワークと体験活動を行う。	
	まちづくりインターンシップ	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業を活用した事前指導の後、中心市街地の商店街において2週間程度(90時間)のインターンシップを行う。接客等の職務体験を通じて、地域における問題に直面し、活性化の方策を探り、その成果をまとめて報告するという一連の学習に取り組む。	
	英語Ⅰ	英語の基礎力、特に読解力の充実を目的とする。将来専門書講読の学力を養うために、様々な分野の英文に触れるよう努める。重要表現は毎時の小テストで定着を計る。	
	英語Ⅱ	英語Ⅰで養った読解力をさらに高め、将来専門書講読の学力を養うために、より踏み込んで多様な分野の英文に触れるよう努める。重要表現は毎時の小テストで定着を計る。	
	中国語Ⅰ	前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、簡単な会話ができることを目標とする。日本人の中国語学習者の難点に合わせた発音も表現のパターンも考慮した講義内容の配置で、学生が自ら練習できるように、本文以外に会話文と練習問題を設けているので、学生主体の授業を導入し、先生と学生が練習を通じて自然に身につけることができるようにしたい。	
中国語Ⅱ	発音を覚えた後、前期の基礎表現よりやや長い構文を覚え、身の回りの物事や身近な表現ができるようにする。練習を通じて、自己紹介、家族の紹介や作文、物の所在を各自ができるようにしたい。また同じ内容を口頭でも表現できるようにしたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英会話Ⅰ	英語によるコミュニケーション能力を習得することにより、第1言語の使用も見つめ直してみたい。話しかけ方や、断り、謝りという身近な場면을題材として、会話の基本を学ぶ。海外旅行をはじめとして、これから遭遇するであろう英語での会話の場面に慣れるための、基礎的能力を身につけることを目標とする。	
	英会話Ⅱ	視覚機器を利用し、英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。ペアやリポートでの会話練習に加え、英語でのゲームの実施や教室を歩きさまざまなクラスメイトや教員にするインタビューなどを通して、くつろいだ雰囲気の中で頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口をついて出ることをめざす。	
	ドイツ語Ⅰ	本講義では、そんなドイツ語をまず声に出して読めるようになることを最初の目標としつつ、少し変わった視点からの考察も交えて、ドイツ語の日常表現と基礎的な言語構造を学び、ドイツ語圏文化の理解を深め、習得して頂くことを目的としています。主教材には、平易なDialogと文法解説で構成されたCD添付の初級文法読本を、副教材には、各種ワークのプリントを用います。加えて、前期はサッカーW杯を素材にしたものを用意し、ドイツ映画も鑑賞する予定です。	
	ドイツ語Ⅱ	本講義では、ドイツ語の発音と、基礎的な文法事項を復習した上で、前置詞や助動詞を用いた表現と、接続詞を含んだ従属文(副文)構造を学び、実際のドイツ語素材に触れていきます。DBの時刻表を読み解いたり、レストラン・メニューを吟味したり(実際にドイツ料理を食べてみましょう)、ある程度シチュエーションを限定した中で、有用で平易なドイツ語表現とドイツ語圏の文化を気軽に学んで下さい。	
	日本語Ⅰ	「文法」を理解し、その応用まで習得・定着することを目標とする。また、場面に応じた日常会話のリスニング能力や会話力を向上させ、ニュースなどの情報を正しく聞き取る力を養う。中級から中上級への移行のために、作文や読解を通して、文型の整理・確認をする。新聞、雑誌、コラム、ニュース解説などの生教材を使用し、日本事情、日本社会の仕組みや日本人の考え方、生活習慣、かつ世界事情、世界各国の生活習慣などに関心を持ち、理解を深めることを目指す。	
	日本語Ⅱ	日本語Ⅰの講義に続き、「文法」を理解し、その応用まで習得・定着することを目標とする。また、日常生活に必要な会話から、報告、説明、スピーチ、さらには、質問や討論のできる力を養う。卒業論文作成に向けて、文章を正しく理解する読解力を身につけ、要約文、説明文、レポート、感想文など、ある程度まとまった文章が書ける力を養う。新聞、雑誌、コラム、ニュース解説などの生教材を使用し、日本事情、日本社会の仕組みや日本人の考え方、生活習慣、かつ世界事情、世界各国の生活習慣などに関心を持ち、理解を深めることを目指す。	
	日本語会話Ⅰ	文法・語彙を用い、日本での大学生活、社会生活に必要な口頭表現や技術を学ぶ授業である。日本語らしい発音を習得するために、アクセント・イントネーション・リズムの練習をする。また、語彙を増やし、身近な場面での日本語会話を練習し、日本での生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。	
	日本語会話Ⅱ	文法・語彙を用い、日本での大学生活、社会生活に必要な口頭表現や技術を学ぶ授業である。日本語会話Ⅰに引き続き、日本語らしい発音を習得するために、アクセント・イントネーション・リズムの練習をする。また、語彙を増やし、身近な場面での日本語会話を練習し、日本での生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。	
	日本語理解Ⅰ	本講義は、日本語における大学の授業の理解、大学生生活、社会生活に必要な日本語の知識・運用能力を身につけるための授業である。読む・書く・聞く・話すという4技能を総合的に伸ばすために、さまざまな言語活動を行う。	
	日本語理解Ⅱ	本講義は、日本語における大学の授業の理解、大学生生活、社会生活に必要な日本語の知識・運用能力を身につけるための授業である。日本語理解Ⅰに引き続き、読む・書く・聞く・話すという4技能を総合的に伸ばすために、さまざまな言語活動を行う。	
	保健体育概論	「適切な運動の実施・適切な栄養の摂取・十分な休養(睡眠)」は健康の基本です。本講義では、私たち人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかなくてはならない、健康的な生活への位置づけと健康の必要性について論じます。私たちの日常生活を取り巻く運動・栄養・休養(睡眠)、喫煙・飲酒等、様々な健康行動について最新のトピックスを取り上げ、生涯にわたって健康的な生活を送っていくための実践的な足掛かりとなるよう一緒に考えていきましょう。生涯の各段階で直面する様々な健康問題やそれに対する適切な行動について理解し、健康的な生活を送るための実践力を身につけることを目標とします。	
	保健体育実技Ⅰ	明るく充実した質の高い人生を送るためには何が必要なのでしょう。か?本授業では、生涯にわたって健康で活力のある生活を獲得するために、「健康づくり」の理論的背景と具体的な実践方法について実技を通して学びます。健康づくりの基礎理論、健康運動の実践のための心拍数の測定方法、生涯スポーツの技術を身につけることを目標とします。	
	保健体育実技Ⅱ	健康の保持増進という観点から、各種実技種目を通じて呼吸循環器系に適切な運動負荷を与えることを目的とし、健康体に関する各種運動・スポーツの重要性を理解させる。また、器具を用いない基本的な有酸素運動(ジョギング・ウォーキング)、の技術を習得し、日常生活に則した健康体の保持増進に対して理解を深めさせる。有酸素運動実践のために、負荷の設定方法や心拍数の測定方法、健康運動・軽運動の技術を身につけることを目標とします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 共通科目	経営学概論	ビジネスを考える場合には、企業経営の全体像を見ることがひつようであることから「経営学とは何か」ということを考察する。	
	簿記論	本講は、簿記教育の考え方や作表に関する基礎部分の理解をはじめ、全体的には、企業の経営活動を要約して報告書（財務諸表）を作成するまでの簿記システムの理解が授業目標の中心となる。	
	簿記論演習	本講義は「簿記論」の継続科目としての位置づけとなる。企業の経営活動における諸取引の会計処理が中心となり、取引から財務諸表間での総合問題を解くことができる水準を目標としている。	
	経済学原論Ⅰ（マクロ）	GDPをはじめ、有効需要と乗数理論、金融・財政政策などマクロ経済にかかわる基本的なテーマについて幅広く取り上げる。	
	経済学原論Ⅱ（ミクロ）	市場経済システムの有効性を需要曲線、供給曲線を使って説明すると共に市場の失敗のケースについても取り上げ、その対応策について学習する。	
	民法総論	民法はさまざまな法律の基本的枠組みを提供している。また債権と物権など、世の中の取引行為が行われる際におこななければならない基本知識を提供している。民法を知り、法的発想に慣れてもらいたい。	
	商法総論	民法の応用分野として商法を学ぶ。債務不履行に基づく損害賠償の請求の仕方や、約束手形の流通と不渡りになるリスクなど、具体的な商取引にまつわる問題を取り上げ講義する。	
	政治学史	戦後日本の政治学の中心にいたのはモダン・ボリテイックスに関心をもつ研究者たちが主流であった。彼らが当初共通のテーマとしたのは戦後日本が置かれた状況を反映して国内政治では「民主主義」であり、国際政治ではアメリカとソ連邦の対決を背景とする「日米同盟」であったが、それらはその後の国内政治と国際政治の構造変動に伴い多様に展開した。その際中心的政治学者として活動していたのは、丸山真男学派であり、この影響力は今日でも無視しがたい影響力をもっている。そこでこの丸山学派を理解できるようにするため、丸山理論を紹介し、そこから戦後日本の政治学の動きと丸山学派といわれる人たちの理論を学ぶことが目的である。	
	国際政治学	冷戦が終結してからすでに十数年経つにもかかわらず、相変わらず国際政治はその方向性がはっきりと見えるどころか、混沌とした状況の様相すら呈している。そのため、そうした現象を研究対象とする国際政治学の分野もグラント・セオリーに匹敵する理論が形成されず、現実を反映するかのようにカオスの状況にある。そこで、本講義では受講者が冷戦後にあらわれてきたさまざまな理論とその具体的展開を理解しつつ、目まぐるしく推移する国際政治の動向を理論的視点から学ぶことを目的とする。	
	海外事情Ⅰ（アジアⅠ）	アジア諸国の歴史・文化・生活・観光について学ぶ。特に観光事情や地理に重点をおいて習得することを目標とする。アジア諸国は歴史的にも関係が深く互いの文化交流も古くから行われてきたが特に近年ひと・ものの交流が盛んで相互理解も深まっている。変化の激しいアジアの現状についての理解を深めることが重要である。アジア各国についての実情を正しく理解し、それらの変化について日々情報を取り入れる努力を怠らない。	
	海外事情Ⅱ（アジアⅡ）	アジア諸国の歴史・文化・生活・観光について学ぶ。特に観光事情や地理に重点をおいて習得することを目標とする。アジア諸国は歴史的にも関係が深く互いの文化交流も古くから行われてきたが特に近年ひと・ものの交流が盛んで相互理解も深まっている。変化の激しいアジアの現状についての理解を深めることが重要である。アジア各国についての実情を正しく理解し、それらの変化について日々情報を取り入れる努力を怠らない。	
	海外事情Ⅲ（ヨーロッパ）	この講義を通してヨーロッパの現状を理解する事を目的とする。そのために英・独・仏・伊・露を中心とする歴史的な発展と共に、EUの生成、発展、今後の展望の省察を行う。欧州を歴史的、地理的、社会的に把握させる。	
	海外事情Ⅳ（アメリカ）	アメリカ（北米、南米、カナダを含む）の歴史・文化・生活・観光について学ぶ。特に観光事情や地理に重点をおいて習得することを目標とする。近年さらにアメリカとのひと・ものの交流が盛んになっている。歴史と現状を比較しながら学んでいく。アメリカ（北米、南米、カナダ）各国についての実情を正しく理解し、それらの変化について日々情報を取り入れる努力をしてください。	
	ビジネスと宗教	日本人だけでなく、世界の人々にとって、観光地としてのインドは神秘的な魅力のある国である。観光だけでなく、経済面でも今や世界中が注目するインド市場である。これからは世界でのビジネスを展開する上で、インドとの関係はますます重要となってくるはずである。そこで、インドおよびインド人を知るには、その社会そのものといっいいいヒンドゥー教を理解しなくてはならない。本講義では、ヒンドゥー教の成立から現代のヒンドゥー教まで学んでいく。	
	西洋思想概論	国際化時代の現代、西洋的な感じ方や考え方・心情や思想を理解しておくことは不可欠である。本講義ではギリシャ以来の代表的な西洋思想、西洋的なものの見方・考え方を講義し、また東洋思想と対比することによって、学生たちの西洋への理解の向上と自分自身の思想の形成に役立てたいと思う。	
東洋思想概論	インド文化そのものといえるヒンドゥー教の思想を理解するにあたって、本講義では紀元前約1000年にさかのぼるヴェーダの宗教思想、ウパニシャッド哲学から反ヴェーダ思想としての初期仏教思想までのインド思想を概説していく。これらを通して、インド人の宗教観、インド的思考法などについて学んでいく。		



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	岡山ビジネス研究	企業経営の現場で日々奮闘されている企業経営者や業界リーダーの方々を招聘し、起業の方法や会社経営のポイントについて講演していただく、留学生の受講生が多いことから、外国人講師にも参加していただく予定。なお、その間、企業見学も2回織り込む予定である。毎回、感想文を書いてもらう。地域住民の方々も自由に聴講できる公開講座形式で行う。	
	コンピュータリテラシ	日本語ワードプロセッサの利用を中心にレポート・論文等の作成に必要な技能を身につけると共に、コンピュータの機能および機器やソフトウェア利用法の理解につとめる。	
	コンピュータ基礎	コンピュータを業務などでより深く活用できるようになるためには、コンピュータの使い方だけではなく、内部の仕組みについての知識が必要になる。この講義ではコンピュータの基本的な構成と役割、仕組みなど、コンピュータの基礎的な事項について幅広く学ぶ。2進数、ビット、バイトなどの情報の基本となる単位を理解した上で、プロセッサ、メモリ、補助記憶装置、入出力デバイス、バッファ、ソフトウェアとハードウェアの関係などについて幅広く学ぶ。	
	情報システム基礎	情報システムは見えないところで我々の生活を支えている。この情報システムが果たしている役割を理解したうえで、情報システムの構成や特徴を理解する。情報システムには、処理形態、利用形態からみると、さまざまな構成方式があることを知り、代表的なシステムの例と、クライアントサーバシステムについて、基本的な特徴を理解する。またコンピュータシステムの管理と利用の観点から、オペレーティングシステムを理解し、代表的な種類について、それぞれの特徴について理解する。	
	情報ネットワーク概論	ネットワークは企業活動において必要不可欠な基盤である。このことを認識し、ネットワークを構成するLANやWAN、インターネットやイントラネットといった分類に付いて学び、ネットワークの構成要素について理解する。また、ネットワークの活用方法、LAN内での機器の設定方法、イーサネットなどの代表的なネットワーク通信方式、ネットワークを構成する回線、接続装置などの種類と役割、機能について学習する。	
	情報社会とモラル	情報を取り巻く新しいパラダイムに対応し、順応していくことが、ビジネスや社会生活において、重要であることを学ぶ。具体的には、ネット社会やケータイ社会における犯罪事例を学ぶと共に、知的財産権や不正アクセス行為の禁止等に関する法律など、情報社会で仕事や生活をしていくために必要なモラルや規律について学ぶ。また「社会の目」や「科学の目」を通して、情報社会のさまざまな問題点について、自分で考えて行動できるように、考察も行う。	
	情報と職業	情報化社会において必要となる基礎的教養を身につけ、ネットワーク世代の職業倫理観や最新の経済モデルについて学ぶ。流通、金融などのビジネス分野で利用されているシステムや、電子商取引、エンジニアリングシステム、組込みシステムなどの概念、特徴、考え方や例について理解する。また、労働関連・取引関連法規、技術者倫理に付いても学習する。	
	知的財産権	まず、知的財産権の基礎的な知識を、各法の相互の関係にも配慮しながら平易に解説する。さらに、単に特別法としての法的保護のあり方に関する現状報告にとどまらず、今後の方向性についての提言や、一般法である民法をはじめとする関連諸法についても、視野を広げ考察してゆく。	
	入門統計学	確率論をベースとして、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な統計学的知識の基礎を学ぶことを目的とする。最初に統計の基礎としてデータ・グラフ・基本統計量などについて統計のベースとなる確率論の基礎を学び、それに基づいたデータの分析方法（推定・検定など）について学習する。	
	統計解析の基礎	データから結果のみが得られる統計パッケージではなく、一般的な表計算ソフトを用いて、できるだけ計算や処理の手順がわかるような形で、統計解析を実践的に学習する。	
	企業経営論	現実の経営は激しく揺れ動く環境の中でダイナミックな活動を展開している。授業では経営現象の理解のための知識、情報を提供し、問題解決の能力を高める。	
	会社法	会社法について解説する。商取引の主体は会社であるが、「会社を運用するとはどのような社会的責任が発生するのか」というテーマを中心に講義する。また、株式会社における株式の機能や証券市場について学ぶ。	
	人事経営論	経営資源として、「人」、「物」、「金」、「情報」中の「人」に着目し、「人事」に関する制度、評価、賃金を中心に、最新の情報を加味して授業を進める。生産管理、品質管理についても、そこに従事する「人」の観点より考察する。	
	経営と倫理	日本国内の優良企業で経営面における不祥事が続いており、個人投資家に多大な損害を与えている。上場企業は社会的な責任が問われていることから、経営と倫理について考察し、現在、必要されている企業のあり方を検証する。	
	経営戦略論	企業経営に関し、企業の変遷を知ることは大切である。産業、企業の栄枯盛衰を理解することは、将来を見通すヒントにもなる。それぞれの時代を取り巻く環境・世相もみながら講義をすすめる。代表的な企業家の研究も随時行う。経営上の出来事と時代背景との関係を理解する。現代とのつながりを理解する。	
アジアビジネス経営論	本講義では、アジア各国の事情、代表的な産業・企業、日本の進出企業のビジネス展開等を学習する。アジアに関心を持ってもらうのが最大の目的である。そのため、アジアに関するホットな話題も取り上げていく。		
金融論	金融なくしては産業の円滑なる運営は不可能である。銀行制度成立の理論的根拠とその具体的発展を解明する事を目的と為す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
企業経営コース	経営資金調達論	企業が倒産するのは直接的には債務返済の資金が不足して債務不履行が発生するからである。債務問題は企業の信用を維持するための生命線である。倒産しない企業の財務状態を考え、財務分析方法などを考察する。		
	地域金融産業論	地域経済、地域金融、地域産業、地域社会などについて地域の様相を詳しく観察する中で調査力、観察力、情報力、分析力を学ぶと共に人間社会の過去・現在・未来への幅広い視野を持つ。次世代の若者として期待に応える資質と人間力の向上の習得を目指す。		
	投資銀行実務入門	国際的な金融市長をはじめ、国際商品市場などで、欧米の機関投資家が活躍している。その中で、投資銀行が大きな役割を果たしている。本講義では、投資銀行の実体を把握すると共に、世界の資本市場の構造と世界経済に与える影響を考える。		
	金融実務論	日本の金融機関の業務を地域金融面から考察し、金融機関が求める期待される企業像を考察する。金融機関が求める人材とはどのような人材かという面にも触れて講義し、就職活動を支援する。		
	金融実務特論	金融機関の内部では、どのような業務があり、顧客に対してサービスを提供しているのか、という視点から、実務面から金融機関の実働を解明する。実務家による具体的な業務の秘話などの明らかにする。		
	証券外務員論	証券会社で証券業務を実施するためには、「証券外務員」の公的資格が必要である。本講義では、証券マンの業務をマクロ経済面と証券業務の内容を資格試験の合格を目指した講義内容とする。		
	専攻科目	情報システムコース	プログラミング基礎	プログラミングの役割を理解したうえでプログラム言語を学ぶ。システム開発ではプログラム言語を用いてプログラミングが行われていることを理解し、実際にプログラム言語を使用したコンピュータプログラミングについて学ぶ。具体的には、コンパイラやインタプリタ、変数や演算概念を理解し、順序制御、選択制御、繰り返し処理の基礎を学ぶ。計算や情報処理を行うプログラミングを通して、情動的思考力を向上させ、問題解決能力を身に付ける。
アルゴリズム			アルゴリズムと流れ図の基本的な考え方や表現方法を理解する。システム開発では、業務の分析やシステム化を行うために、流れ図を使ってアルゴリズムが表現されることがある。流れ図を読み書きする力は、仕事を依頼する立場からも、依頼される立場からも必要となる知識である。この講義では、順次構造、も、依頼される立場からも必要となる知識である。この講義では、順次構造、選択構造、繰り返し構造を理解し、合計、探索、併合、整列などのアルゴリズムを学び、流れ図での表現方法について理解する。	
経営情報学実験Ⅰ			コンピュータと情報処理について、実際にコンピュータを利用して、作品を作る作業を通して学ぶ。具体的にはAdobe Flashによるコンテンツ作成を行う。Adobe Flash は、動きとサウンドをもった「リッチコンテンツ」を作成するための代表的なツールであり、インターネット上の多くのサイトで利用されている。本実験では、Flashの基本から、Action Scriptを使ったFlashの応用までを学び、情報コンテンツでプログラムがどのように使われているかを理解する。	
経営情報学実験Ⅱ			情報システムについて、理屈だけではなく、実際に活用することで理解を深める。具体的には、情報システムでよく利用されているリレーショナルデータベースについて体験的な学習を行う。基本的なSQL文を使って、リレーショナルデータベースを実際に操作する。実際のデータに対して、選択、挿入、更新、射影、結合などの操作を行い、情報システムにおいて、データベースが果たしている役割、機能、操作方法等について、理解する。	
経営情報学実験Ⅲ			実務で必要となる情報通信ネットワークに関する知識・技術を体得するために、実機の操作による実験・実習を通じてネットワークを理解する。ネットワークに接続する機器の設定方法や、障害発生時の対処法、日常的なセキュリティ対策の方法についても学習する。具体的には、ネットワークの診断等で利用されるコマンド(ipconfig、ping、tracertなど)の意味や活用方法を理解し、ホストの設定や、サーバの構築、ネットワーク機器の設定など、業務で必要となる要素技術を学習する。	
情報システムコース		コンピュータグラフィックス実習	マルチメディアによる表現法と技術を学ぶために、Webページ用の情報コンテンツを作成する。具体的には図形デザインで利用されるドローソフトのAdobeIllustratorと、写真の加工などに利用されるペイントソフトのAdobePhotoshopを活用する方法を身に付ける。基本的な操作方法から学びはじめ、画像の作成、編集、加工などの応用的な使用方法までを学ぶ。最終的にはWebページにまとめる作業までの操作について学ぶ。	
		情報デザイン概論	情報デザインとしての視点から、Webやゲームなどのインタラクティブなメディアの情報のわかり易さ、システムの使いやすさについての考え方やその方法について学ぶことを目的としている。	
		ユニバーサルデザイン論	デザインの重要なテーマの一つである「ユニバーサルデザイン」について、その考え方や事例を研究を行い理解を深める。また、建築物や製品、サービス等の実施されているデザインについて、ユニバーサルデザインのレベルを調査・分析し、改善提案を行うことで、理論と実践に繋げる。これらにより、ユーザーの多様性とデザインとの関係を学ぶ。	
		認知科学概論	本講義の目的は、心理学、精神科学、人工知能、コンピュータなどの諸科学がお互いに関連し合いながら認知の解明に取り組んでいることを理解することで、目標は認知を基に知性と感性の基本を把握することである。認知科学の基礎である知覚、記憶、思考・推定や認知モデル等を通じ、デザインとどのように関係しているか概説する。入門的内容であるので認知科学全体を広く概観し、個々のテーマの詳細には立ち入らない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報システムコース	データベース	データベース及びデータベース管理システム(DBMS)の意義、目的、考え方を理解する。データベースは、業務を情報(データ)という観点から表現するための重要な手段であり、データベース管理システムは、データを構造的に蓄積し、それらの一貫性を保ち、効率的に取り出すための機能を備えたものである。このことに注目し、その意義、目的、考え方を理解し、データベースを活用したり、構築するための基礎知識を身に付ける。	
	情報ネットワーク	異なるシステム環境間で通信するためには、通信プロトコルが必要であることを理解し、インターネットで使用されている代表的なプロトコルを学習する。また、インターネットの基本的な仕組みと、インターネット上のサービスの特徴、インターネットなどの通信を行うための通信サービスの特徴を理解する。具体的には、TCP/IPなどのインターネットの仕組みや、電子メール、Webなどのインターネットサービス、回線事業者やISPなどの通信サービスの概要について学習する。	
	情報セキュリティ	ネットワーク社会において、安全に活動するという観点で、情報セキュリティの基礎について学ぶ。情報セキュリティの基本的な概念と目的を理解し、守らなければならない情報資産について学習する。その上で、情報セキュリティの代表的な脅威の種類と基本的な対処法を理解し、セキュリティ事故を発生しやすくする要因である脆弱性についても学び、日常生活だけではなく、企業での業務活動に生かせるようにする。	
専攻科目  MBA取得留学コース	MBAアカウント入門	会計の仕組みを広範囲にわたって学習することが目的である。会計に関する法律、日本の会計制度の規則、国際会計基準、キャッシュフロー計算書等の新しい会計制度や企業再編などを会計を通じて概観する。	
	MBAリーダーシップ入門	経営環境が大きく変化する時代には、時代の変化に対応できる指導者が求められている。リーダーの役割、リーダーの条件などを20年以上の実務経験から論じる。	
	MBAマーケティング入門	消費者ニーズが大きく変化しており、女性・中高年層の需要が拡大している。ライフスタイルの変化から見た「これからのマーケティングのあり方」を論じる。「ポストモダンマーケティング」的視点から、今後のマーケティングの流れを考察する。	
	MBAファイナンス入門	会社の設立から期中活動、決算までの流れを理解し、企業の資金調達と運用について総合的に学び、財務諸表の数値に着目する。	
	ビジネス法Ⅰ	会社法や金融商品取引法の改正により企業統治や合併などの規程が大きく変化し、独占禁止法の改正により談合に代表されるカルテルなどが厳罰化され、消費者契約法などの消費者関連の法律が新設され、消費者との契約には重要な注意が要するようになった。これらのテーマを中心に取り上げる。	
	ビジネス法Ⅱ(国際法を含む)	「対消費者契約」「労務契約」、「国際取引」、「条約」、「国際機関」をテーマに講義する。具体的には、商取引における消費者重視への注意、国際取引の特徴、フランチャイズシステムに対する評価、国際取引における関税、為替、について、学ぶ。	
	社会調査概論	社会調査の意義、歴史、調査倫理、官庁統計をはじめとする各種調査の実際やマーケティングなどでの利用事例などを社会調査全般にわたって学習する。その後、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項に触れ、標本調査の考え方をもとに、データの要約と関係の把握や推定・検定などの基礎的な統計処理の方法について学習する。	
	調査と計画	確率と統計の応用として、社会調査のためのデータのサンプリングおよび分析を行うための形式に整理する方法をアプリケーションソフトを利用して学ぶ。	
	社会調査実習	社会調査の全過程を実習することを目的とする。つまり、調査の企画から報告書の作成に至るまでの一連の流れを実習を通じて体験的に学習する。	
	データ解析	多変量データ解析手法についての入門的内容を概説する。扱う手法は、重回帰分析を中心に、その基礎となる短回帰分析、その発展である数量化Ⅰ類と主成分分析である。各手法ごとに説明、演習を繰り返す。	
	ビジネス英語	オフィスを中心としたビジネスで使われる基礎的な口頭表現や、手紙、メモ、報告書等の文書の書き方を学ぶ。なお、この授業にはネイティブスピーカーがアシスタントとして参加する予定である。具体的場面で用いられる特殊な語彙は別にして、定型的に用いられる表現や、手紙等の文書のフォーマットを身につけることを目標とする。	
	MBA英語特論Ⅰ	学内で選考試験を行い、米国フィンドリー大学に留学しTOEFL 550点レベルの能力を身につけることが目的である。	
	MBA英語特論Ⅱ	学内で選考試験を行い、米国フィンドリー大学に留学しTOEFL 550点レベルの能力を身につけることが目的である。	
	実践日本語	ある程度のもつた読み物の読解やあるトピックについて自分の意見を述べる練習を通して、日本語の生活必須語彙および実用的な表現を、場面に即して実践的に習得する。日本語能力試験2級レベルの読解・文法などの総合能力の養成を目指す。	
	ビジネス日本語	留学生を対象として、将来日本の企業、商社との取引業務、事業開発などを想定した内容に関する文章の理解力、作成能力およびビジネスのマナーなどを身につける。ビジネスのマナー、礼儀作法を学んだ上で、敬語、適切な電話、来客の対応に重点をおきます。	
日本語演習Ⅰ	日本語の文型と文法を習得した上、会話例を勉強し、自然な会話あるいは日本語らしい日本語を実感して、実際のコミュニケーションにおける運用能力向上を目指す。日本語の基礎を固めながら、初級終了レベルの学習者を中級レベルの日本語能力にすること。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目	日本語演習Ⅱ	日本で広く読まれている新聞、本、雑誌から取った長文を教材として使うことによって、「エッセイ」「科学」「言語」「日本の文化」など各分野の単語を覚え、長文に対する読解能力を高め、文章の中の文法も自然と身に付けることができる。そして、日本の月々の行事を合わせた短文の動きと様子の言葉の使い分けを習得する。日本語の聞く、話す、読む、書く四つの能力を高めると同時に、日本の文化や生活習慣などの理解を深めること。	
	観光社会学	昨今、国内も国際的にも大交流時代である。このような状況下で、観光振興が地域にもたらすメリットとデメリットが併存している。本講では、観光に関するそれら諸現象を「社会学」的に捉え、分析、考察を図る。社会学的思考方法を身に付けさせる。具体的な実例に基づいて、理解を深めさせる。	
	芸術文化論	近代文化の枠組の一部をなす芸術が、どのように成立したか、それ自身どのような制度として機能しているのかを中心に芸術と文化の関係を考察していく。芸術の暗黙の前提、および文化の暗黙の前提を意識する態度を身につける。	
	日本美術史	古代から平安時代までの日本美術の流れをスライド、VHS、DVDなどを活用しながら概観する。平安時代までの日本美術の流れを理解する。	
	西洋美術史Ⅰ	西洋美術の歩みを原始時代から近代の始まりまでをたどっていきます。時代はそれぞれの形の特性を持っています。たとえばエジプトとギリシャではまったく異なった美意識によって、それぞれの形が生まれてきました。両者には優劣の差はないのですが、わたしたちはしばしば現代の美意識で時代の優劣をつけてしまいがちです。ここではそれぞれの時代が生み出した形の誕生の物語を、グローバルな視点から追いかけてみたいと考えています。細かなデータはできるだけ切り捨て、現在文化遺産として残されている視覚的資料を見ながら、本質的な形の歴史をたどりたいと思っています。	
	西洋美術史Ⅱ	スライド等で各時代を代表する作品を紹介しながら、18世紀後半から20世紀初頭にかけての近・現代の西洋美術史の概説を行う。近・現代の西洋美術史を理解するための基本的な知識を身につける。また、授業の一環として、大原美術館をはじめとする美術館見学を実施する。	
	日本近代美術史	スライド等で代表的な作品を紹介しながら、近代日本美術史の概説を行う。日本近代美術史を理解するための基本的な知識を身につける。また、授業の一環として、大原美術館をはじめとする美術館見学を実施する。	
	文化財学概論	先人が残した絵画、彫刻、工芸、建築物といった文化財は、後代に継承すべき人類共通の貴重な財産である。文化財学的重要性を認識し、現代社会における文化財の状況を把握し、なすべき道筋を見極めることを目指す。まず日本・世界の現状と文化財保護法など関係法令について概説する。自然災害、人的災害によって被害を受けている文化財を救うため、ユネスコ、イコモス、イコモスなどの文化財に係わる国際機関が中心になり、各国の協力で様々な文化財を破壊から守る努力がなされている。本年度は、ダムに水没するエジプト神殿が移築されたりしたエジプトでの具体例を挙げて文化財保護の歴史的背景を講義する。	
	デザイン史	産業革命以降におけるデザインが真の現代的意味をそなえるまでの経過を、美術の歴史的な流れや当時の社会的背景を踏まえながら学ぶことを目的とする。近代デザインの歴史を体系的に理解すること、近代のデザインとアートの繋がりを理解すること、近代デザインと産業革命以降の社会との関係を理解することを目標としている。	
	インターンシップ	インターンシップ概論を履修した学生を対象に、30日間以上の企業内研修を実施し、企業内での業務内容の体験で企業経営実務を理解を深める。	
	インターンシップ概論	社会経験の少ない学生が企業社会での体験を通じて、親近感を持ち企業経営の実態を体得することを目的としている。企業が求めている人材像も検証する。	
	プロジェクト実習Ⅰ	学内外で行われるボランティア的な活動で、プロジェクトに参加してグループ活動を行うことで単位を認定する。例えば、地域の活動のインターネット中継や、学内の研究活動を学外の人に向けての発表・展示会、サーバー構築、ネットワークの機器のセットアップや更新作業などがある。この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導の元、各学年の学生が協力し合って合同でプロジェクトを遂行する。プロジェクト実習Ⅰでは上級生のアドバイスの下で活動する。活動内容をまとめた報告書の提出を義務づける。	
	プロジェクト実習Ⅱ	学内外で行われるボランティア的な活動で、プロジェクトに参加してグループ活動を行うことで単位を認定する。例えば、地域の活動のインターネット中継や、学内の研究活動を学外の人に向けての発表・展示会、サーバー構築、ネットワークの機器のセットアップや更新作業などがある。この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導の元、各学年の学生が協力し合って合同でプロジェクトを遂行する。プロジェクト実習Ⅱでは上級生のアドバイスの下で活動する。活動内容をまとめた報告書の提出を義務づける。	
	プロジェクト実習Ⅲ	学内外で行われるボランティア的な活動で、プロジェクトに参加してグループ活動を行うことで単位を認定する。例えば、地域の活動のインターネット中継や、学内の研究活動を学外の人に向けての発表・展示会、サーバー構築、ネットワークの機器のセットアップや更新作業などがある。この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導の元、各学年の学生が協力し合って合同でプロジェクトを遂行する。プロジェクト実習Ⅲでは上級生のアドバイスの下で活動する。活動内容をまとめた報告書の提出を義務づける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ITパスポート特論	試験取得に対して単位を認定する。情報処理技術者試験のITパスポート試験に合格したものに対して単位を認定する。	
専攻科目	基本情報技術者特論	試験取得に対して単位を認定する。情報処理技術者試験の基本情報技術者試験に合格したものに対して単位を認定する。	
	ITスペシャリスト特論	試験取得に対して単位を認定する。情報処理技術者試験のネットワークスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、情報セキュリティスペシャリスト試験に合格したものに対して単位を認定する。	
	ゼミナールⅠ	経営情報学科の勉学に当たり、日本語の基礎的な表現力、思考力、などを向上させ、レポート作成能力などを習得し学問への勉学方法を身につけることを目的とする。	
	ゼミナールⅡ	学生自身が未来の方向を考え、企業経営コース、情報システムコース、MBA取得留学コースにおける基礎的な知識を習得させ、実務に即した研修を実施し、学業意欲を高める。	
	ゼミナールⅢ	各専任教員がテーマを決定して、専門的な知識を学生に習得させ、研究分野をさらに深く研究させることを目的としている。さらに、卒業論文や卒業研究のテーマを確定させ、その準備作業を行う。	
	卒業研究	各専任教員が個人指導しながら、提出されたテーマに沿って研究指導を行う。	

(注)

1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の出定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

## 経営情報学科設置の趣旨

### ア 設置の趣旨及び必要性

#### (1) 学科設置の目的と趣旨

倉敷芸術科学大学は、平成7年4月に、倉敷市ならびに岡山県の強い要請と県民・市民の要望を受け「芸術学部」「産業科学技術学部」「教養学部」の3学部を擁する大学として開学し、建学の精神である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を育成する」に沿って、教育・研究体制の充実に努めてきた。現在は、「芸術学部」「産業科学技術学部」「生命科学部」の3学部となっているが、より特色のある教育を目指し「産業科学技術学部」の「起業経営学科」と「IT科学科」を改称・統合し、新たに「経営情報学科」として設置することにした。

経営を取り巻く環境は日々変動し、企業経営の4大要素（人・物・金・情報）のバランスがより重要視されるようになってきている。一方で、コンピュータはあらゆる経済活動を網羅する基盤技術の一つとして産業社会に組み込まれ、企業経営においても情報技術を理解し活用できる人材がこれまで以上に必要とされている。日進月歩のIT関連技術を如何に有効に活用していくかは、グローバル化した世界経済における日本の経営者にとって重要な課題となっている。しかしながら、経営と情報の双方の技術をマスターしている人材は少なく、社会における人的ニーズはより高まってきている。本学に設置する「経営情報学科」は、従来型の単なるビジネスパーソンの育成にとどまらず、グローバル化された情報化社会の中で国際的な視野を持ち、これからの企業のあるべき姿を見出しうる経営と情報の両方のセンスを持った人材の養成を目指す。

#### (2) どのような人材を養成するのか

新卒採用の目的は、将来の企業の可能性を拡大することである。「経営情報学科」では、常に問題意識を持ち、そして自らの能力を自律的に高めることの出来る人材の養成を目指す。周りから与えられたことだけを行うのではなく、なぜそうしなければならないのか、なぜ必要なのかを、自らが考えて主体的に行動でき、時代の進歩に対応し、新しいことにチャレンジする精神を身につけてもらうことを養成の目的としている。日本の国内市場が少子高齢化現象を背景とした消費不況に陥り、若年層の雇用状況が最悪の事態になっていることから、雇用を日本国内だけではなく、海外などにも通用するような国際的感覚をもった人材を養成することを目指す。

卒業後の進路及び就職先としては、一般企業の営業・総合職だけではなく、金融関連企業、サービス関連企業、SE、ネットワークエンジニア、Webデザイナー、プランナ

一、経営コンサルタント、NPO 法人職員、教員、公務員など、実務者としての幅広い就職先を想定している。

## イ 学科の特色

### (1) 経営分野と情報分野の領域横断的学習と研究

本学では、これまで起業経営学科と IT 科学科を別々の学科として教育・研究活動を行ってきたが、この 2 学科を統合することで、技術知識を身に付けた企業経営者の養成、企業経営センスを身に付けた情報技術者を育成する。企業経営コースでは、経営分野の講義科目を充実させ、経営学の基礎的科目「経営学概論」をはじめ「経営戦略論」「経営と倫理」「企業経営論」「経営資金調達論」「アジアビジネス経営論」「人事経営論」などの経営学系科目を配置している。また、情報システムコースでは、経営学に加えて情報学が学べるように「プログラミング基礎」「経営情報学実験」「データベース」「コンピュータグラフィックス」「情報セキュリティ」などの情報系科目を配置している。さらに、MBA 取得留学コースでは、提携校であるアメリカのフィンドリー大学の協力による「MBA 英語特論 (I、II)」を設け、TOEFL 550 レベルの英語能力とアメリカ人のものの考え方などを実地で会得させ、国際的な視野を高めることを目的としている。

### (2) 実務主体の実践的カリキュラム

インターンシップ（企業経営コース）やプロジェクト実習（情報システムコース）などを通じた実際の社会生活に根差した教育カリキュラムを提供する。

### (3) 資格取得を目指した実践的教育

社会人として経済活動上必須となってきた情報活用術として、「IT パスポート」、「社会調査士」などの実務者資格、並びに、教員免許資格として高校 1 種「公民」および「情報」の資格取得を積極的に支援する。

## ウ 学部、学科の名称及び学位の名称

学部名称：産業科学技術学部 (College of Science and Industrial Technology)

学科名称：経営情報学科 (Department of Management and Information Science)

学位名称：学士 (産業科学技術) (Bachelor of Science and Industrial Technology)

学科名称については、経営と情報の両方のセンスを持った人材の養成する学科であることを明確に表現する名称とした。

## エ 教育課程の編成の考え方及び特色

経営情報学科では前記アおよびイで示した人材を要請する為、下記のような方法で教育課程を編成する。

教育課程は教養科目と専攻科目から編成され、教養科目については全学共通に文化、社会、自然、外国語、保健体育と多分野において幅広い知識・学力を養うために開設している。専攻科目は、企業経営コース科目、情報システムコース科目、MBA取得留学コース科目から構成され、共通科目において専門性を視野に入れながら、経営と情報のそれぞれの基礎知識を修得させる。さらに「インターンシップ」や「プロジェクト実習」などの実習科目により学内だけに留まらず、積極的に実社会で実務経験を積むことで、実践力を伴った人材を育成する。

卒業の条件は教養科目 20 単位以上、専攻科目 90 単位以上、合計で 124 単位以上である。

## オ 教員組織の編成の考え方及び特色

本学科の理念、目的を具現化するために、専任教員を企業経営コース、情報システムコース、MBA取得留学コースに配置している。1年次からゼミナールを設けたことにより、1年次から4年次までのすべての年次で少人数教育を実現し、学生一人ひとりの状況をきめ細かく把握することに努めている。これにより、建学の理念である「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を育成する」ということを実現するための体制が整ったことになる。

## カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

企業経営、IT（情報技術）の共通基礎科目の修得を通じ、経済社会で必須となる実務主体の実践的教育を実施する。「ITパスポート」など経営と情報の共通知識としての資格取得を目指した目標設定型の履修モデル（資料1）を示すとともに、「経営」「情報」のそれぞれの分野のエキスパートを目指した幅広い専門領域に対応したカリキュラムを編成する。各専門領域に対応する「企業経営コース（経営・金融スペシャリスト）」「情報システムコース（ITスペシャリスト）」「MBA取得留学コース」のコースを設定する。

大学教育の特徴のひとつであるゼミナール形式の講義を1年次から採用し、卒業後の進路・目的を早期に明確化した教育カリキュラムを編成する。1年次に開講される「インターンシップ」や2年次から始まる「プロジェクト実習」などの学内外実習を通じ、



実社会で役に立つ実務経験教育に積極的に取り組む。3年次以降の専門教育においては、通常の専門科目以外に、現役の社会人を招聘した専門講義をオムニバス形式で開講することで、学生に産学交流の機会を提供するとともに、勉学意識の向上や、学生の職業意識への関心を高める。進路目標に対応した系列的な履修指導や資格取得支援のカリキュラムを通じ、実践力をともなった有用な人材を育成する。

また、教員免許として「公民」「情報」、博物館学芸員、その他の資格として「社会調査士」などの実務資格取得に必要な科目も開講し、幅広い教養と情報知識の取得に全力をあげて取り組む。

## (2) 履修指導方法

入学前教育では、導入教育の一環として推薦入試やAO入試の合格者に対して、入学前教育の資料を作成してレポート等の提出を求めている。新入生オリエンテーションでは、入学式の直後に1泊2日の宿泊を伴うオリエンテーションを実施し、履修指導や体験的な学習を行っており、毎年の恒例行事となっている。さらに、チューター制度を設けており、これは建学の理念に基づき、開学以来の実施している制度である。原則として学年ごとにチューターを配置して個別指導・履修指導にあたっている。また、学習支援センターを設け、入学前教育の実施、新入生対象の導入科目の運営、学生相談への対応を主要な業務としている。

## (3) 卒業要件

卒業認定単位は124単位で、一般教養科目を20単位以上、専攻科目を90単位以上としている。一般教養科目の英語（日本人対象）、日本語（留学生対象）、専攻科目では、経営学概論、簿記論、経済学原論Ⅰ、民法概論、商法概論、コンピュータリテラシ、情報システム基礎、ゼミナール（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）、卒業研究などを卒業必修要件としている。ただし、外国人留学生は、実践日本語、ビジネス日本語、日本語演習（Ⅰ、Ⅱ）も必修科目であり、これらを修得する必要がある。

## キ 施設、設備等の整備計画

### (a) 校地、運動場の整備計画

本学は学生の教育研究活動、さらに人格形成に必要な学生生活が送れるよう、教育研究環境にふさわしい校地・運動場の充実を図ってきた。校地は岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地に所在し、水島工業地域を見渡す小高い丘の上に建ち、晴れた日には瀬戸内海、瀬戸大橋、遠く四国を望むことができる。その校地面積は174,794㎡であり、この面積は設置基準の校地面積88,986㎡に対して、85,808㎡の基準面積超過となっている。

体育関係の授業や課外活動を行う運動場、体育館は敷地内に設けている。さらに、隣接地にスケートリンク、テニスコート、フットサルコートを設けている。

学生の休憩場所、厚生施設については、開学時より厚生会館（921 m<sup>2</sup>）の中に学生食堂（537席）、喫茶店（40席）、売店（書籍・文具・雑誌販売）が設けられている。これに加え、平成17年度には、208.8 m<sup>2</sup>の学生控室（25号棟）を敷地中央に設けた。ガラス張りの明るい空間は冷暖房完備で飲み物などのベンダー・コーナーがあり、学生たちの憩いの場になっている。

#### (b) 校舎等施設の整備計画

基本的に教室、図書館、会議室等の校舎施設は、経営情報学科の前身であるIT科学科、起業経営学科が用いて来た現有の施設を活用する。研究室は、専任教員一人当たり24 m<sup>2</sup>を基準とする部屋を準備している。

#### (c) 図書館の資料及び図書館の整備計画

図書館は本館のみからなり、面積は、1,446 m<sup>2</sup>で、閲覧席が252席ある。平成20年度末の蔵書冊数は、和書洋書あわせて84,000冊に達している。この内、IT関連及び経営に関する雑誌は和雑誌34誌、洋雑誌23誌、図書は和書が11,344冊、洋書2,902冊である。

他大学の図書館との協力については、岡山県大学図書館協議会相互協力協定に参加しており、岡山大学附属図書館はじめ、19大学図書館で閲覧、貸し出しができる。また岡山理科大学、千葉科学大学、倉敷芸術科学大学の姉妹校図書館では、図書を無料で取り寄せることができるなど協力体制を整えている。

#### ク 入学者選抜の概要

本学科では、センター入試を除き、すべての入試問題の作成、面接官、試験監督および採点者等の入試に関する業務は、本学科の教職員がたずさわっている。「倉敷芸術科学大学入学者選抜に関する規程」により、入試本部を設置し、入試最高責任者を学長、入試担当責任者を入試広報部長が担う。本学科の入学定員は60名とし、筆記試験や面接試験においては、2人以上の教員が対応して、点数化された得点で可否の判断基準としている。

#### ツ 管理運営

教授会では、それぞれの学部長が議長となり、教育、研究組織、施設、設備、予算、

その他教育・研究に関する事項等について審議している。構成員は、専任の教授、准教授、講師、助教としている。内容については、事前に予算、学務、入試、学生生活などの各種委員会で審議を行い、素案を作成して、教授会に諮っている。原則として毎月第3水曜日に開催する定例教授会と、案件に応じてその都度開催される臨時教授会がある。可能な限り時間割を調整し教授会に全教員が出席できるような体制作りに配慮している。

#### テ 自己点検・評価

本学が開学以来、学長を委員長する自己評価委員会を設置している。運営の骨子としては、(1) 自己点検・自己評価の実施、(2) 自己評価の実施と公表並びに改善、(3) その他の自己評価に関する事項、などに分類して実施している。実際の運営としては、広報委員会、大学院委員会、学生生活委員会、学務委員会、就職委員会・図書委員会、教育研究委員会等を設けている。

#### ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学科では、学生が就職活動をするための考え方や身に付けなければならない文書作成能力やマナーなどを就職支援科目として配置している。教養科目として仕事に対する取り組み方では、実業界の講師で実施する「人生と仕事Ⅰ」、主に業界研究を実施する「人生と仕事Ⅱ」、文章作成能力を高める「キャリア・ラーニング」、実際に職務を体験して報告書にまとめる「キャリア・チャレンジⅠ」「キャリア・チャレンジⅡ」で実施している。教育課程外での支援体制として主に就職部が学生の指導にあっている。1年次生から就業に対する意識の高揚を図り、自らキャリアデザインを描けるように、マイキャリアノートを作成し将来設計をイメージできるように配布している。3年次生に対しては、就職適性自己理解テストをはじめ、SPI適性模擬検査、就職実践模試・エントリーシート攻略テスト等を取り入れ、就職活動を積極的に行うような取組を行っている。年間を通してガイダンスを開催し、学生の就業意識を高めている。さらに、就職対策講座では、学生の苦手分野を克服し、一般常識的なマナーも含め実践的に取り組み、学生の積極的な活動に支援している。4年次生に対しては、各学部就職部スタッフを配置し、ゼミ教員と連絡をとりながら、ゼミにも出向き情報提供を行っている。また、キャリアカウンセラーとの個別相談も行い、個々の学生のニーズにあった指導も併せて行っており、公務員希望者には、就職ガイダンスに加え採用試験対策講座を開いている。

## 履修モデル（企業経営コース）

## 資料 1

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
必修科目	経営学概論	2	経済学原論Ⅰ（マクロ）	2	ゼミナールⅢ	4	卒業研究	8		
	簿記論	2	ゼミナールⅡ	4						
	民法総論	2								
	商法総論	2								
	コンピュータリテラシ	2								
	情報システム基礎	2								
	ゼミナールⅠ	4								
		16		6		4		8	34	
	専攻科目 選択科目	海外事情Ⅰ（アジアⅠ）	2	簿記論演習	2	政治学史	2			
		コンピュータ基礎	2	経済学原論Ⅱ（ミクロ）	2	国際政治学	2			
西洋思想概論		2	海外事情Ⅱ（アジアⅡ）	2	海外事情Ⅳ（アメリカ）	2				
アジアビジネス経営論		2	海外事情Ⅲ（ヨーロッパ）	2	知的財産権	2				
インターンシップ		8	岡山ビジネス研究	2	企業経営論	2				
インターンシップ概論		4	情報社会とモラル	2	人事経営論	2				
			情報と職業	2	投資銀行実務入門	2				
			入門統計学	2	金融実務論	2				
			統計解析の基礎	2	金融実務特論	2				
			会社法	2	証券外務員論	2				
			経営と倫理	2	データ解析	2				
			経営戦略論	2	社会調査実習	2				
			金融論	2						
			経営資金調達論	2						
			地域金融産業論	2						
			社会調査概論	2						
			調査と計画	2						
		20		34		24		0	78	
計		36		40		28		8	112	
教養科目 20 単位以上										
卒業単位 124 単位以上										

## 履修モデル (情報システムコース)

## 資料 1

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
必修科目	経営学概論	2	経済学原論Ⅰ (マクロ)	2	ゼミナールⅢ	4	卒業研究	8		
	簿記論	2	ゼミナールⅡ	4						
	民法総論	2								
	商法総論	2								
	コンピュータリテラシ	2								
	情報システム基礎	2								
	ゼミナールⅠ	4								
		16		6		4		8	34	
専攻科目	コンピュータ基礎	2	情報社会とモラル	2	知的財産権	2	プロジェクト実習Ⅲ	1		
	情報ネットワーク概論	2	情報と職業	2	海外事情Ⅳ (アメリカ)	2				
	海外事情Ⅰ (アジアⅠ)	2	入門統計学	2	国際政治学	2				
	西洋思想概論	2	統計解析の基礎	2	政治学史	2				
	日本美術史	2	簿記論演習	2	デザイン史	2				
	アジアビジネス経営論	2	東洋思想概論	2	日本近代美術史	2				
	プログラミング基礎	2	岡山ビジネス研究	2	文化財学概論	2				
	ITパスポート特論	2	海外事情Ⅱ (アジアⅡ)	2	人事経営論	2				
			海外事情Ⅲ (ヨーロッパ)	2	企業経営論	2				
			ビジネスと宗教	2	ビジネス法Ⅰ	2				
			経済学原論Ⅱ (ミクロ)	2	ビジネス法Ⅱ (国際法を含む)	2				
			情報デザイン概論	2	データ解析	2				
			アルゴリズム	2	ユニバーサルデザイン論	2				
			データベース	2	認知科学概論	2				
			情報ネットワーク	2	経営情報学実験Ⅱ	1				
			情報セキュリティ	2	経営情報学実験Ⅲ	1				
			経営情報学実験Ⅰ	1	プロジェクト実習Ⅱ	1				
			コンピュータグラフィックス実習	1	ITスペシャリスト特論	2				
			プロジェクト実習Ⅰ	1						
			基本情報技術者特論	2						
		16		37		33		1	87	
	計	32		43		37		9	121	
教養科目 20 単位以上										
卒業単位 124 単位以上										

## 履修モデル (MBA取得留学コース)

## 資料 1

		1年次		2年次		3年次		4年次		合計
必修科目	経営学概論	2	簿記論	2	経済学原論Ⅰ (マクロ)	2	ゼミナールⅢ	4		
	簿記論	2	民法総論	2	ゼミナールⅡ	4				
	民法総論	2	商法総論	2						
	商法総論	2	コンピュータリテラシ	2						
	コンピュータリテラシ	2	情報システム基礎	2						
	情報システム基礎	2	ゼミナールⅠ	4						
	ゼミナールⅠ	4								
		16		6		4		0	26	
専攻科目	海外事情Ⅰ (アジアⅠ)	2	簿記論演習	2	政治学史	2	MBA英語特論Ⅰ	8		
	コンピュータ基礎	2	経済学原論Ⅱ (ミクロ)	2	国際政治学	2	MBA英語特論Ⅱ	8		
	西洋思想概論	2	海外事情Ⅱ (アジアⅡ)	2	海外事情Ⅳ (アメリカ)	2				
	インターンシップ	8	海外事情Ⅲ (ヨーロッパ)	2	知的財産権	2				
	インターンシップ概論	4	岡山ビジネス研究	2	MBAリーダーシップ入門	2				
			情報社会とモラル	2	MBAマーケティング入門	2				
			情報と職業	2	ビジネス法Ⅰ	2				
			入門統計学	2	ビジネス法Ⅱ (国際法を含む)	2				
			統計解析の基礎	2	データ解析	2				
			経営と倫理	2	社会調査実習	2				
			経営戦略論	2						
			MBAアカウンティング入門	2						
			MBAファイナンス入門	2						
			社会調査概論	2						
			調査と計画	2						
			ビジネス英語	2						
			18		32		20		16	86
	計	34		38		24		16	112	
教養科目 20 単位以上										
卒業単位 124 単位以上										